

空腹時血糖値の上昇ですい臓がんリスクも上昇

過去の疫学研究により、2型糖尿病がすい臓がんの危険因子であることが示され、その機序として高インスリン血症と高血糖が関係していることが指摘されている。これらの異常は前糖尿病の段階からみられることから、前糖尿病がすい臓がんの危険因子であるかが重要であるものの、血糖値とすい臓がんの関連を検討したこれまでの研究結果には一貫性がない。そこで本研究では、血糖値とすい臓がんリスクの量依存的関係についてメタ分析を実施し検討した。

血糖値とすい臓がんの関連を検討した前向き研究で2013年11月30日までに発表されたものをPubMedとScopusで検索したところ、9件が該当し、2,408例のすい臓がん患者が解析の対象となった。前糖尿病と糖尿病の両方を組み込んだ解析においては、空腹時血糖とすい臓がん発症との間に強い量依存的関係がみとめられた。空腹時血糖が10mg/dL上昇するごとにすい臓がん発症率が1.14倍となった ($P<0.001$)。糖尿病を除外し、前糖尿病とすい臓がんとの関連を検討した感受性解析においても、同様の結果が得られた(空腹時血糖10mg/dL上昇するごとのすい臓がん発症率1.15倍; $P=0.003$)。したがって、空腹時血糖が10mg/dL上昇するごとにすい臓がん発症リスクが14%上昇することが示された。前糖尿病は生活習慣を変えることで病状が改善しうることから、前糖尿病の早期発見と生活習慣の改善によりすい臓がんの発症率の上昇を抑えることが可能であることが示唆された。

出典：British Medical Journal. 2015; 349: g7371